



TITLE:

京大東アジアセンターニューズレター 第648号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター

CITATION:

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター. 京大東アジアセンターニューズレター 第648号. 京大東アジアセンターニューズレター 2016, 648

ISSUE DATE:

2016-12-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/217466>

RIGHT:

2016 年 12 月 5 日発行 第 648 号

CONTENTS

「中国経済研究会」のお知らせ.....	2
経済史シンポジウムのお知らせ.....	3
中国、経営不振に陥る老舗企業 いかに「ゾンビ化」から脱出？ 福喜多俊夫.....	5
即身仏を訪ねてー③日本編：山形(2 体)・福島(1 体)・茨城(1 体) 小島正憲.....	8
【中国経済最新統計】	14



「中国経済研究会」のお知らせ

2016年度第7回（通算第61回）の中国経済研究会は下記の要領で開催することになりましたので、ご案内いたします。大勢の方のご参加をお待ちしております。

記

時 間： 2016年12月20日(火) 16:30—18:00

場 所： 京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館地下1階 みずほホール AB

テーマ： 「中国におけるインフラ投資と経済成長への影響」

報告者： 金 戈(浙江财经大学财政税务学院教授)

注：本研究会は原則として授業期間中の毎月第3火曜日に行いますが、講師の都合等により変更する場合があります。

2016度における開催(予定)日は以下の通りです。

前期：4月19日（火）、5月17日（火）、6月21日（火）、7月19日(火)

後期：10月18日（火）、11月15日（火）、12月20（火）、1月17日（火）

（この研究会に関するお問い合わせは劉徳強（liu@econ.kyoto-u.ac.jp）までお願いします。なお、研究会終了後、有志による懇親会が予定されています。）



経済史シンポジウムのお知らせ

東アジア工業化に関する歴史的研究 —中国と日本を中心に—

主催：科研費 東アジア資本主義史研究プロジェクト
共催：京都大学東アジア経済研究センター
京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター
後援：京都大学東アジア経済研究センター支援会

■日時 2017年3月6日（月）13:00～17:00
■会場 京都大学経済学部第三番教室（法経東館2階）
■参加費 無料

13:00-13:10 開会の挨拶 問題提起

13:10-13:50

久保 亨（信州大学教授）	東アジア工業化の捉え方 中国
堀 和生（京都大学教授）	東アジア工業化の捉え方 日本

13:50-14:10

木越義則（名古屋大学准教授） 中国の貿易

14:10-14:30

富澤芳亜（島根大学教授） 中国の繊維産業

14:30-15:00

加島 潤（横浜国立大学准教授） 中国の鉄鋼業
峰 毅（社会人中国经济研究者 東京大学経済学博士） 中国の化学工業

休憩

15:15-16:00

朱蔭貴（復旦大学教授）	中国经济史からのコメント
丸川知雄（東京大学教授）	現代中国经济論からのコメント
厳善平（同志社大学教授）	中国農業論からのコメント

16:00-17:00

自由討論

17:10-18:40 懇親会

京都大学経済学部みずほホール（法経東館地下1階） 参加費 2,000 円（支援会会員は無料）

***準備の都合上、シンポと懇親会の参加については事前にご連絡ください。**

連絡先 京都大学経済学部 堀和生 hori@econ.kyoto-u.ac.jp

20 世紀 100 年間の世界経済の諸々の趨勢のなかで、最も大きな変化の一つは東アジアの経済的な台頭であろう。19 世紀後半に世界経済は一つに統合されたとされているが、その時点の世界経済のなかで東アジア経済全体の規模、およびその工業部門の比重からみて、その比率は比較的小さなものに過ぎなかった。ところがその後の 1 世紀、とりわけその後半期において工業化が急進展した結果、現在東アジアは従来世界経済を主導してきた西欧、北米と並んで世界経済全体の、そして工業のコア地域の一つに変貌している。これらの巨大な変動は、日本、中国、韓国、台湾等、一つの国や地域だけで起こったのではなかったもので、それらに対する探究は、当然に国民経済だけにとらわれない広い視野が必要である。このシンポジウムは、このような関心のもと、中国と日本を中心とした東アジア的なスケールで、20 世紀におけるこの地域の経済発展、工業化の進展の特質を探究して、その世界史的な意義について考える試みである。具体的には、次のようなことを意図している。

第 1 は、近代中国における工業の分析を軸にして、通時的な発展過程を解明することである。中国経済史では研究の進展にともない、清代、民国期、計画経済期、改革開放期それぞれの分析は深まってきたにもかかわらず、各時代を通した歴史像の構築や発展の理解についてはいまだ十分な関心が払われていないように思われる。ここでは中国経済史の幾つかの分野を取り上げ、とりわけ民国期と計画経済期の関連に注意を払って検討し、改革開放後について展望したい。

第 2 は、このような中国の個性的な発展を、東アジア内で隣接している日本を中心とした地域の発展と比較してみることである。計画経済期に両地域の交流が極端に制限された時代があったとはいえ、その前後のほとんどの時代、両地域の社会経済の結びつきはきわめて強く相互に規定し合う関係にあった。さらにさかのぼれば、近代に至るまでの長い時代、この地域は多くの共通する歴史的条件を抱えていた。戦後のある時期に資本主義世界と社会主義世界という対比が強調されたために、これまで比較史的な認識が弱かったことをふまえ、本シンポジウムでは日本経済史の経済発展、工業化の過程を、意識的に中国の過程と比較して論じたい。

第 3 に、東アジアにおいて、急速に発展する工業部門と膨大な人口を擁する農業部門とが並存したことに注目し、両部門の関連性、規定関係に関心を払う。研究史的に見れば、世界経済と結んで近代化を主導し、また資料が残存しやすい工業や金融等の近代的部門の研究が先行している。しかし、近年研究が進んでくると、アジアの工業化は世界経済との結合関係のみならず、国内の非近代とされる伝統的農業部門のあり方に大きく規定されていたことが次第に明らかになってきた。このシンポジウムでは、東アジアの工業発展を、農業を含めた広い社会経済基盤のなかで捉え直してみることを提起したい。

本シンポジウムがめざすものは、精緻な研究成果の発表ではなく、東アジアの経済発展、工業化をいかに理解すべきなのかという試論の模索である。このような挑戦的な試みは、通常の学会では扱うことが難しいテーマである。関心をおもちの方は、このシンポジウムにぜひ積極的にご参加いただきたい。

中国、経営不振に陥る老舗企業 いかに「ゾンビ化」から脱出？

一般社団法人大阪能率協会常任理事、順利包装集団董事（在上海）

福喜多技術士事務所所長、東アジアセンター外部研究員

福喜多俊夫

人民網（10月17日）は「熾烈な競争が繰り広げられている今の市場で、いかに問題を克服して輝きを取り戻すかが、全ての老舗企業の共通の課題となっている」と報じた。

中国の老舗企業はいかに生き残ろうとしているのか、人民網の記事から探ってみた。

1. 生き残りが難しい老舗企業

稻香村、東阿阿膠、全聚徳、同仁堂……。これら老舗企業は、中国では誰でも知っており、文化とも言えるものを築いてきた。しかし、時代遅れの体制であることや市場の需要にマッチしていないこと、後継者不足などの問題が重なり、その発展状況は思わしくない。

現在、中国商務部が老舗ブランドと認定する「中華老字号」の称号を得ている企業が中国に1128社あり、うち73社が上場企業だ。これら老舗企業のうち、同仁堂や東阿阿膠、稻香村など、成長を続けているのはわずか20-30%。ほとんどの老舗企業が経営不振となっている。さらに、名前が存在するだけで、商品販売が止まっている「ゾンビ」のような状態の老舗企業も少なくない。

一方、海外の老舗企業の多くは、他の大企業とタッグを組んだり、商品のイノベーションをしたりするなどして、世界で知られるブランドへと成長している。長年連続で発表されている世界で最も価値のあるブランドトップ100の半数以上は、欧米と日本のブランドで、その多くが老舗企業だ。

2. 4つの問題克服が課題

21世紀に入り、1651年に創業した刃物メーカー・王麻子剪刀が経営困難に陥り、巨額の負債を抱えて、傘下の工場閉鎖を余儀なくされた。必要に応じて改革を進めることができなかった国有企業の同社は、現代にマッチした企業制度を構築できず、成長がストップしてしまった。実際には、王麻子の問題は、

多くの老舗企業が抱えているものと同じで、経営不振の老舗企業には一定の共通点がある。

中華老字号振興計画専門家委員会の主任委員を務める尹傑氏は、「現在、中国の老舗企業は▽体制と観念が時代遅れで、改革・イノベーションの妨げとなっている▽商品や技術が時代遅れで、企業価値が向上しない▽資金不足、人材の流失が原因で、発展の原動力が低下している▽現代ブランドの意識が薄く、ブランドのメリットを発揮できていない、といった4つの大きな問題を抱えている」と指摘している。工業化時代である今、持ち味、大量生産、品質保証の3つの面で、いかにバランスを取るかが、老舗企業に共通の課題となっている。尹氏は、「現在、多くの老舗企業が古いしきたりに従っており、ほとんどの老舗企業が現代的な企業制度を構築できていない。そのため、イノベーションして発展する原動力に欠けている。また、多様化や個性化などの市場のニーズに対応しているものの、工場での手作業で生産しているため、科学技術の要素や科学的な基準をそこに盛り込めず、生産効率が悪く、生産規模を拡大できないという老舗企業もある」とし、「その他、資金問題やブランド意識も老舗企業の発展を阻んでいる要素」と指摘している。

3. イノベーションがカギ

今後、老舗企業はどのように束縛を解けば、羽ばたく蝶のように発展できるのだろうか？

専門家は、商品、人材育成、株式の導入などの面でのイノベーションが、老舗企業再建のカギになるとの見方を示している。著名な経済学者である、北京大学光華管理学院の厲以寧・名誉院長は、「老舗企業がしなければならないのは考え方を変えること。老舗企業が生き残るには、新商品を打ち出さなければならない。既存の商品に新たな機能を加えてもいい。これが市場を切り開く道。考え方を変えることはとても大切で、中国国内の消費市場は飽和状態だと勘違いしてはいけない。市場が飽和状態になることは永遠にない」と指摘している。どのように、活気が出るメカニズムを構築し、投資者や株主の要求に応えればよいのだろうか？また、消費者のニーズや将来のニーズの変化にどのように対応すればよいのだろうか？中国茶葉股份有限公司の王震会長は、「老舗企業を継承する過程で、勇気を持って体制や思想のイノベーションを行い、やる気を起こさせる新しいメカニズムを通して、製品、ルート、マーケティング、研究開発のイノベーションを実現しなければならない」とアドバイスしている。中国証券基金業協会の賈紅波・秘書長は、「借金をして資金を調達することが習慣に

なっている老舗企業がある。株式発行による資金調達を重視、理解せず、それに偏見をもっている場合もある。老舗企業は、私募ファンドに対する見方を変えなければならない」との見方を示す。私募ファンドが老舗企業の経営に参入すると、老舗企業の投資コストが削減でき、資金調達が容易になるだけでなく、各種資源を提供してもらうこともでき、利益共同体の形成につながる。全聚徳の会長は、「中国の老舗企業は、世界に進出し、溶け込まなければならない。また、企業が実際に制定している世界戦略に基づき、『待つ、頼る、もらう』という考え方を変える必要がある。さらに、インターネットを活用して、老舗企業の文化的要素を掘り起こすことを考え、知名度や忠誠度などの面で顧客を取り戻さなければならない」と指摘している。

4. 言うは易し、行うは難し

日本やドイツの老舗企業は100年企業を謳い、家業として伝統を守りながら、時代の変化にもゆるやかに対応してしぶとく生き抜いている企業が多い。このような生き方は目の前の利益を追うことに熱心な中国の企業には真似ができないように思う。また、老舗企業が地方都市の雇用の中心になっている場合、地方政府が雇用を守るために、実質的には「ゾンビ化」しつつある企業に体質改善は無考慮にその場しのぎの資金援助をして無理やり存続させることになる。たとえば、山西省などにある鉄鋼の町が抱える問題は一筋縄ではいかない。山西中升鋼鉄のような多くの鉄鋼メーカーは、こうした企業が地域の主な雇用者であり納税者であることを意識している地方政府の支援のおかげで、事業低迷にもかかわらず生き残っている。政府は企業の借金を株式に転換する「債務の株式化」に動き出した。債務の株式化には借金だけで利益が出ない企業を延命させて「ゾンビ化」させる可能性がある。このような企業にとってはイノベーションも難しい。

以上

即身仏を訪ねてー③日本編：山形(2体)・福島(1体)・茨城(1体)

28. NOV.16

アジア・アパレルものづくりネットワーク代表理事
株式会社小島衣料オーナー
東アジアセンター外部研究員
小島正憲

1. 今、なぜ、「即身仏」なのか。 再録：(2015年10月15日記)

即身仏とは、厳しい修行の末に悟りを開き、その後、衆生救済を願って、自ら断食し命を断ち、生きながらにして仏になっていった仏教修行僧のことである。なお、仏教界では、生きている間に悟りを開くことを即身成仏といい、即身仏とは別に考えられている。また、仏教修行僧が自力で命を断ち、その姿を後世に留めるものを即身仏といい、死後、他力で人工的あるいは偶然に、その姿を後世に残したものをミイラという。日本には即身仏が20体(9体が山形エリアに、6体が新潟エリアに、宮城・福島・茨城・長野・岐阜に各1体)、現存していると言われており、それらはなぜか東北地方に集中している。日本以外では、ベトナムや中国に即身仏が現存していると言われているが、あまり多くはないようである。一方、ミイラは、エジプトや中国(長沙の馬王堆)など世界各地に存在している。

日本は今、超高齢社会を目前にして、「今後の高齢者の身の処し方」を解決することが喫緊の課題となっている。またそのために高齢者自らの「死生観の確立」が急がれている。日本には、「檜山節考」に見られるような伝統がある。これを肯定的に見れば、かつての日本の高齢者のこの行為は、自らの生活共同体の存続を願って、自らの命を捧げて行くという気高い犠牲的精神の結果である。棄老とも呼ばれるこの習慣は、長野県の「姥捨て山」が有名だが、岩手県遠野市デンデラ野には、明治時代になるまで実際に残っていたという。私はこのことと、即身仏が東北地方に多いということは、無関係ではないと思う。

今回、私は自らの「高齢者としての死生観の確立」を目指して、即身仏をこの目で見てみたいと思い立ち、そのメッカである山形に赴いた。残念ながら時間の制約があって、9体のうち7体しか拝めなかったのも、残りの2体の即身仏には、来年、お目にかかりたいと思っている。また新潟エリアなどにも赴きたい。なお私は来年、毎月、プチ断食を行おうと思っているので、即身仏の思想を感覚的にも捉えやすくなると考えている。

2. 山形（2体）・福島（1体）・茨城（1体）の即身仏リストと所在地

①松高山大聖寺

住所：山形県東置賜郡高島亀岡

電話：0238-52-0444

即身仏名：禅峰待定（たいじょう）上人

②（亀齢山妙寿院： 廃寺）

住所：山形県米沢市
梁沢小中沢

電話：不通（故松本
茂方）

即身仏名：明海上人

③金久山貫秀寺

住所：福島県石川郡
浅川町小貫宿ノ内63

電話：浅川町役場農
政商工課

0247-36-1183

即身仏名：有貞（ゆう
てい）上人

④秋嵩山妙法寺

住所：茨城県桜川市本郷13

電話：0296-75-1802

即身仏名：舜義上人

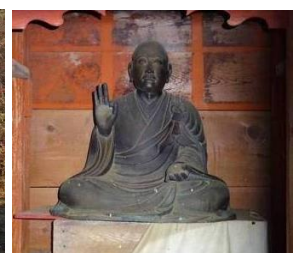


3. 「即身仏」調査報告

①松高山大聖寺（亀岡文

殊）真言宗

即身仏名：禅峰待定（たいじ
ょう）上人



※詳細な記録文書が残っているが、
発掘調査の結果、即身仏は確認できず。

入定年齢：1731年47

歳 出身階層：町人

入定方法：石郭土中入定

入定動機：再生し衆生を済度するため



大聖寺には文殊菩薩が祀られており、亀岡文殊として名高く、日本三文殊の一つに数えられている。そのため合格祈願や学徳成就のために県内外から多くの参拝客が訪れる。ただしこの寺のHPには、即身仏のことは何も書かれていない。そこで大聖寺に電話をして即身仏の有無について聞いてみると、「寺には、禅峰待定上人の入定の詳細な記録文書が残っていたので、平成14年3月末、発掘調査を行ったが、記録されていた場所では即身仏は確認できなかった。現在、その場所には石碑、すぐ側に鐘楼を建て、そこに木像を安置している」という答えが返ってきた。つまり大聖寺には即身仏は現存していないということであった。

待定上人の入定記録は、大聖寺に「待定法師忍行念仏伝」として残されており、そこには待定上人の詳しい伝記や入定の様子が書かれている。それによれば、待定上人は、圧政や疫病に苦しむ衆生の救済のために、「月待ち行、寒中の川行、箱中の百日苦行」を行い、指や舌、男根なども切り落とし、各地の寺に供養したという。その後、「自分はこの清浄の靈窟に身を留め、魂は安養の華台に到り、還って衆生を済度せんこと、曠劫の大慶なり」と誓いを立て、生身入定を決意し、五穀断ちを行い、「五尺四方の石郭を作り、そこに木製の柩を納め」、裸形入定したという。

このように壮絶な生身入定を行った待定上人の即身仏が、大聖寺に残存していないということは、誠に残念なことである。私は、せめて木像を拝ませていただこうと考え、大聖寺に足を運んだ。大聖寺には広い駐車場があったが、門前の休憩所のおばさんの話では、「この駐車場は、文殊菩薩を参拝する人たちのためのものであり、わざわざ待定上人を拝むために、ここに来る人は少ない」ということだった。本堂に向かって石積みの階段を上っていくと、右手に鐘楼があり、その中に待定上人の木像が安置されていた。さらにその奥に入定場所を示す石碑が建てられていた。しかしそれらを示す案内板の文字は、風雨にさらされ、消えかかっており、よく読めなかった。おそらく多くの参拝客は、待

定上人の偉業を知らず、拝まないでそのまま帰ってしまうのだろう。

②（亀齡山妙寿院：廃寺） 宗派

不明 ※松本家個人所有

即身仏名 : 明海上人

入定年齢 : 1863年 4

1歳 出身階層 : 貧農

入定方法 : 土中入定

入定動機 : 衆生の救済



妙寿院は米沢市の郊外の梁沢小中沢という農村にあった。残念なことであるが、妙寿院は廃寺となつてすでに久しく、小中沢という地名はナビでも検索できず、電話番号もわからず、なかなか妙寿院を探し出せなかった。とにか

く近所まで行って、地元の人に聞き回って、ようやくその場所を探し当てたが、そこには寺らしき建物はなにもなく、今にも崩れ落ちそうな小さな御堂に、明海上人は寂しく祀られていた。

最近まで、明海上人の子孫である松本茂氏が、小さな谷を挟んだ向かい側に住んでおられ、この堂を守ってこられたということであつたが、先年、亡くなられたという。松本氏のご子息たちは、当地には住まれておらず、ときおり三男の方が戻ってこられ、御堂の手入れをされておられるという。したがって最近、常時、カギがかけられており、御開帳などはされていないようである。当地の教育委員会などで、公的に保存するという話も持ち上がっていたようだが、現在はまだ松本家の個人所有の状態が続いているという。御堂はかなり朽ちており、屋根の前部は雨漏り防止のためか、ブルーシートで覆われている。それでも御堂の正面はガラス張りになっているので、懐中電灯で照らせば、中の明海上人の即身仏を拝むことは可能である。明海上人は、その悪環境の御堂の中でも、衆生の救済を願い、端座しておられる。

明海上人は、貧農出身で、15歳のとき失明し、眼病治療のため湯殿山へ修行に入った。難行、苦行を経て、京都の仁和寺から亀齡山妙寿院という山号と院号を授かった。明海上人は更に修行を続けたが、体力の衰えを悟り、永遠に人々の願いを叶えるため、即身仏を志し、1863年41歳で、入定。

③金久山貫秀寺 （無住職）

曹洞宗 拝観料：300円

即身仏名：宥貞（ゆうてい）上人（弘智法印）

入定年齢：168

3年92歳 出身階層：郷土

入定方法：地上石棺入定

入定動機：大流行疫病に苦しむ衆生の救済のため

宥貞（ゆうてい）上人は福島県で唯一の即身仏であり、地元で丁寧に保存されている。東北大震災のときに即身仏が祀られていた薬師堂が被災したため修復され、その後は浅川町役場農政商工課が管理している。拝観希望者は、農政商工課（0247-36-1183）に電話をすると、同寺近在の住民の連絡方法を教えてくれるので、事前に日時を知らせておくと、拝観させてもらうことができる。なお現在、貫秀寺は無住職のため、通常、薬師堂は施錠されている。拝観者は月間数十人程。

宥貞上人は島根県の郷土の子として生まれ、やがて仏道に進み、23歳で讃岐の国の松尾寺で出家、その後諸国行脚を続け、湯殿山で修行。最期の地を当地の観音寺に定め、住職となる。そのおり、当地では疫病が大流行していたので、苦しむ人々を救済するために捨身、即身仏となることを決意し入定。しかし当地の風土的環境を考慮し、土中入定を選ばず、まず石棺を作り、その中に木棺を納め、木棺の下には木炭を敷き詰め除湿対策とし、室内で入定した。また宥貞上人鈴を持って入定し、「音が止んだら、薬師如来の石像で蓋をするように」と言い残した。なお観音寺（真言宗）は明治22年に焼失したため、宥貞上人の即身仏は近在の貫秀寺（曹洞宗）に引き取られ、同寺の薬師堂に祀られた。



昔、この宥貞上人のことを、土地の人々は「弘智法印」と呼んでいたらしく、同寺のパンフレットにも「即身仏 弘智法印 宥貞上人」と書かれている。これは当時から新潟の西生寺の弘智法印の即身仏が有名であったため、それに影響されたものようであるという。



④秋嵩山妙法寺 天台宗

即身仏名 : 舜義上人 出身階層 : 武士

入定年齢 : 1686年 78歳

入定方法 : 地上阿弥陀石仏胎内入定

入定動機 : 極楽往生、衆生済度

舜義上人は茨城県で唯一の即身仏であり、妙法寺の本堂内で丁重に保存されている。事前に電話（0296-75-1802）で頼んでおけば、拝観させていただける。ただし当寺は拝観料などを定めていないので、拝観希望者は志や供物を用意されたし。妙法寺は立派なお寺であり、本堂内には平安時代の作とされる阿弥陀如来座像、虚空菩薩像（共に県重要文化財）が祀っており、本堂右手廻廊奥に舜義上人の即身仏が祀ってある。もともと舜義上人は、本堂前庭の舜義堂に祀られていたが、堂が消失したため、本堂内に移された。

舜義上人は、相模国衣笠城主三浦資澄の子孫として生まれ、出家して鎌倉の宝戒寺の住職となり、諸国行脚の後、愛弟子舜暁との縁で、当地を最期の地と定め、当地住民の救済のため尽力した。78歳のとき、極楽往生を願い即身仏となることを決意し、断食の後、沐浴し法衣をととのえ、西に向かって仏名を唱え、「死後は、阿弥陀石仏をくりぬき、その胎内に入定させよ」と言い残して示寂。87年後、妙法寺第48代住職の亮順の夢枕に立ち、「われ再び世に出て衆生を救済せん」と告げたため、本堂前庭の阿弥陀石仏を開けてみると、舜義上人の即身仏が現れたので、それを祀ったという。その阿弥陀石仏は、現在、本堂に向かう参道の左側に安置してある。阿弥陀石仏は腹部で二つに分けられるようになっており、胎内入定は可能であったとようだが、舜義上人はかなり窮屈な格好を強いられていたように思われる。

当寺には舜義上人の拝観者が毎日数人訪れているようであり、ひところメディアで注目を集めた霊視能力者の宜保愛子氏もたびたび当寺を訪ね、舜義上人を拝み、霊力を養っていたという。

【中国経済最新統計】

	① 実 質 GDP 増加率 (%)	② 工業付 加価値 増加率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億 ^円)	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005 年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006 年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007 年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008 年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009 年	9.1	11.0	15.5	▲0.7	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010 年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011 年	9.2	13.9	17.1	5.4	24.0	1549	20.3	24.9	1.1	9.7	13.6	14.3
2012 年	7.7	10.0	14.3	2.7	20.7	2303	7.9	4.3	▲10.1	▲3.7	13.8	15.0
2013 年	7.7	9.7	11.4	2.6	19.4	2590	7.8	7.2	▲8.6	5.3	13.6	14.1
2014 年	7.4	8.3	12.0	2.0	15.2	3824	6.1	0.4	4.41	14.2	12.2	13.6
9 月	7.3	8.0	11.6	1.6	11.5	310	15.1	7.2	9.4	1.9	11.6	13.2
10 月		7.7	11.5	1.6	13.9	454	11.6	4.6	8.7	1.3	12.1	13.2
11 月		7.2	11.7	1.4	13.4	545	4.7	-6.7	-8.6	22.2	12.0	13.4
12 月	7.3	7.9	11.9	1.5	12.6	496	9.5	-2.3	6.1	10.3	11.0	13.6
2015 年	6.9	5.9	10.7	1.4	9.7	6024	-9.8	-14.4	11.0	0.8	11.9	15.0
1 月				0.8		600	-3.3	-20.0	2.2	-1.1	10.6	14.3
2 月				1.4		606	48.3	-20.8	49.8	0.1	11.1	14.7
3 月	7.0	5.6	10.2	1.4	13.1	31	-15.0	-12.9	0.3	1.3	9.9	14.7
4 月		5.9	10.0	1.5	9.6	341	-6.5	-16.4	2.9	10.2	9.6	14.4
5 月		6.1	10.1	1.2	9.9	595	-2.4	-17.7	-14.0	8.1	10.6	14.3
6 月	7.0	6.8	10.6	1.4	11.6	465	2.8	-6.3	4.6	1.1	10.2	14.4
7 月		6.0	10.5	1.6	9.9	430	-8.4	-8.2	9.6	5.2	13.3	15.7
8 月		6.1	10.8	2.0	9.1	602	-5.6	-13.9	23.9	20.9	13.3	15.7
9 月	6.9	5.7	10.9	1.6	6.8	603	-3.8	-20.5	5.2	6.1	13.1	15.8
10 月		5.6	11.0	1.3	9.3	616	-7.0	-19.0	2.5	2.9	13.5	15.6
11 月		6.2	11.2	1.5	10.8	541	-7.2	-9.2	27.7	0.0	13.7	15.3
12 月	6.8	5.9	11.1	1.6	6.8	594	-1.7	-7.6	17.2	-45.1	13.3	15.0
2016 年												
1 月			10.3	1.8	18.0	633	-11.5	-18.8	14.1	-2.1	14.0	15.2
2 月			10.2	2.3		326	-25.4	-13.8	-11.3	-1.3	13.3	14.7
3 月	6.7	6.8	10.5	2.3	11.2	299	11.2	-7.4	26.1	4.0	13.4	14.7
4 月		6.0	10.1	2.3	10.1	456	-2.0	-10.5	21.4	2.9	12.8	14.4
5 月		6.0	10.0	2.0	7.4	500	-4.7	-0.1	43.6	-4.8	11.8	14.4
6 月	6.7	6.2	10.6	1.9	7.3	479	-6.1	-9.0	8.5	4.4	11.8	14.3
7 月		6.0	10.2	1.8	3.9	502	-6.4	-12.9	-3.8	-6.2	10.2	12.9
8 月		6.3	10.6	1.3	8.2	520	-3.2	1.4	13.2	0.5	11.4	13.0
9 月	6.7	6.1	10.7	1.9	9.0	420	-10.2	-1.9	27.9	-3.6	11.5	13.0
10 月		6.1	10.0	2.1	8.8	491	-7.4	-1.2	-39.6	0.4	11.6	13.1

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。

2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1月と2月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、()内の数字は1月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。

3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の86%（2007年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。